

教育委員会「点検・評価」報告書
(平成30年度事業対象)

柏原市教育委員会

令和元年12月

目 次

I 点検・評価制度の概要	1 ページ
II 点検・評価実施状況	2 ページ
III 事業シートに対しての評価員からの質問と各担当課からの回答	5 ページ
IV 個別ヒアリングの状況について	17 ページ
V 点検・評価に関する学識経験者からの意見・助言	31 ページ

I 点検・評価制度の概要

1 経緯

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）が改正され、地教行法の改正目的である「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられた。また、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとするものとされた。

本報告書は、地教行法に基づき、平成30年度（2018年度）の柏原市教育委員会の点検・評価を取りまとめたものである。

2 目的

教育委員会は、首長から独立した立場で地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、すべての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会である。その役割は、専門的な行政官で構成される事務局を、様々な属性を持った複数の委員による合議により指揮監督（レイマン・コントロール）し、中立的な意思決定を行うものとされる。

事務の点検・評価は、地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的としている。

3 対象事業の考え方

今回の点検・評価の対象事業は、前年度である平成30年度分の事業実績と令和元年度の取組み計画・状況について実施した。その対象範囲は、地教行法第26条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務の範囲とするが、本市及び本市教育委員会により策定された柏原市教育振興基本計画に基づいて、教育委員会が行っている基本方針より重点事業を網羅する形で対象事業を選定した。

4 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価(自己評価)の結果について、選任した学識経験者2名から意見を聴いた。

学識経験者の選定にあたっては、本市にゆかりのある方で、広い観点からの知見を期して、高等教育や教員の人材養成に携わっていた識見の高い方の知見の活用を考慮した。

評価員名簿（敬称略）

- 手取 義宏（大阪教育大学教授）
- 青木 進（元柏原市立小学校長）

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

第26条（教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検・評価実施状況

1 評価員による点検・評価及び評価員会議開催状況

- 令和元年7月25日（木）から令和元年8月8日（木）まで
各課事務事業の点検・評価シート等による評価員の点検・評価

- 令和元年8月27日（火）午後1時～午後5時
第1回 柏原市教育委員会の事務の点検及び評価に関する評価員会議
会議内容：課（館）ごとに個別ヒアリングを実施

- 令和元年9月2日（月）から令和元年9月27日（金）まで
評価シート及び個別ヒアリング等による評価員の点検・評価

- 令和元年10月8日（火）午後1時～午後4時
第2回 柏原市教育委員会の事務の点検及び評価に関する評価員会議
会議内容：委員会「点検・評価」報告に関することについて

2 点検・評価実施手法

【事業シートの作成】

柏原市教育振興基本計画に掲げる基本的な目標の実現に対する4つの基本方針を基

にした重点事業より、各課（館）で実施事業ごとにシートを作成。

○柏原市教育振興基本計画に掲げる4つの基本方針と重点事業

（基本方針1） 幼小中一貫教育を推進します

- （1）中学校区を単位とした家庭、地域、学校の連携強化
 - ・教師間連携
 - ・子どもの交流、連携
 - ・家庭、地域、学校の連携
- （2）11年間を通した子どもの育成
 - ・幼小中一貫教育推進教員の配置
 - ・学習意欲や学力の向上
 - ・生活指導上の課題の解決
- （3）幼小中一貫教育推進事業の展開
 - ・中学校区の特色ある教育の推進
 - ・施設一体型一貫校の設置計画の推進
- （4）地域連携型中高一貫校の推進
 - ・柏原地域連携型中高一貫教育推進委員会の開催
 - ・連携入試の課題と方向性の検討
 - ・連携事業の実施

（基本方針2） 知・徳・体の調和のとれた子どもを育みます

- （1）幼児教育の推進
 - ・幼稚園教育の推進
- （2）子どもたちの確かな学力の確立
 - ・各学校を支えるプロジェクトチーム
 - ・学習意欲や確かな学力の向上
 - ・府教委や市教委の学力向上方策
- （3）豊かな心の育成
 - ・いじめ、不登校への対応
 - ・人権教育の充実
 - ・道徳教育の充実
 - ・キャリア教育の推進
- （4）健やかな体づくりの推進
 - ・体力づくりの充実
 - ・学校保健の充実
 - ・学校給食の充実
 - ・部活動の活性化

（基本方針3） 社会全体で健やかな子どもを育みます

- （1）家庭の教育力の向上、学習習慣の定着
 - ・教育に関する相談支援の充実

- ・家庭での学習習慣の定着
 - (2) 地域の特性やボランティア等を活かした教育の充実
 - ・わがまち柏原を学ぶ教育活動の推進
 - ・地元大学と連携した学習機会の充実
 - ・学校支援ボランティアの充実
 - (3) 青少年の健全育成
 - ・青少年健全育成活動の推進
 - ・青少年育成団体支援の推進
 - ・青少年講座の充実
 - (4) スポーツの振興
 - ・生涯スポーツの振興
 - ・スポーツ環境の充実
 - (5) 生涯学習の充実
 - ・社会教育施設の整備、充実
 - ・社会教育施設を使用した生涯学習の推進
 - ・公民館の活用
 - ・図書館の活用
 - ・文化財の保存、整備、活用
 - ・文化財に関する知識普及と啓発の推進
- (基本方針4) 安全・安心で、質の高い教育環境をつくります
- (1) 教職員の資質の向上
 - ・教職員の研修の充実
 - ・ミドルリーダーの育成
 - (2) 安全、安心な教育環境の整備
 - ・子どもの安全の確保
 - ・安全、安心な施設環境の構築
 - ・学校の適正規模、適正配置の推進
 - ・安全、安心な給食施設の維持、運営
 - (3) 教育機会の均等と確保
 - ・支援教育及び支援体制の充実
 - ・就園、就学への支援
 - ・奨学金制度の充実

○シート項目について

1. 重点事業
2. 具体的事業名
3. 主な取組み状況・・・
平成30年度の取組み状況（概要と実績・成果・反省点）

令和元年度の取組み

4. 点検・自己評価

5. 成果指標

6. 現状と課題・・・

柏原市教育振興基本計画の進捗状況

昨年度の点検評価による課題等の状況

新たな課題等

7. 今後の方向性

Ⅲ 事業シートに対しての評価員からの質問と各担当課からの回答

公民館

◎重点事業 社会教育施設の整備・充実

【実施事業 公民館施設整備事業について】

☆質問事項①

令和元年度に実施予定の耐震診断についてとその後の耐震工事の予定について 教えてください。

★回答①

市民文化センターの耐震診断につきましては、受託業者による壁面等の調査作業が既に行われたところでございます。

今後の予定といたしましては、耐震診断結果が、令和2年3月中旬に受託業者から提出される予定でございます。

☆質問事項②

今年度実施される、市民文化センターの耐震診断計画をお教えてください。また、国分合同会館についても、今後の見通しをお教えてください。

★回答②

市民文化センターの耐震診断につきましては、受託業者による壁面等の調査作業が既に行われたところでございます。

今後の予定といたしましては、耐震診断結果が、令和2年3月中旬に受託業者から提出される予定でございます。

◎重点事業 社会教育施設を使用した生涯学習の推進

【実施事業 公民館活用事業（公民館講座の開催）】

☆質問事項①

令和元年度の受講生数（見込み）が昨年度より倍増しているようですが、その根拠は何ですか。

★回答①

令和元年度の講座受講者数につきましては、公民館講座、教養講座、教養・基礎講座の各講座の定員数の合計を記載しております。なお、平成30年度の受講者数として記載している人数は公民館講座、教養講座、教養・基礎講座の各講座を実際に受講いただいた方の人数でございます。

☆質問事項②

「終活セミナー」「スマートフォン講座」について、講座実施経緯や講座内容を具体にお教えください。また、受講者の人数等もお教えください。

★回答②

「終活セミナー」につきましては、柏原市制60周年事業として受講料無料の市民公開講座を企画したものでございます。公民館の利用者や講座受講者には高齢の方も多いため、近畿法士会所属の行政書士3名を講師に迎え、老後に備えた遺言書の作り方等法律的なことを学ぶという内容で10月11日(木)13時30分～15時30分に3階展示室で開催し、17名の方に参加していただきました。

「スマートフォン講座」につきましては、堅下分館1階IT教室で毎年開催しているパソコン講座の受講者の方からスマートフォン講座開催について多くの要望がありましたので、開催することとしたものでございます。講師はパソコン講座講師にお願いし、文字入力、カメラ、QRコード、インターネット、時計の設定等の基本的な操作を学ぶという内容で、2月6～9日の4日間、9時30分～12時30分は 아이폰、13時30分～16時30分はアンドロイドの講座を堅下分館1階IT教室で開催し、 아이폰の講座に8名、アンドロイドの講座に15名、計23名の方に参加していただきました。

◎重点事業 公民館の活用

【実施事業 貸館業務】

☆質問事項

平成30年7月より有料貸館化されたことについて、その収入と用途について教えてください。

★回答

平成30年7月分からの有料化による使用料収入につきましては、公民館本館861,800円、堅下分館778,700円、国分分館311,400円、合計1,951,900円でございます。

この収入は、特定財源として平成30年度の公民館の施設管理費に充当され、公民館施設管理に係る支出に充てております。

図書館

◎重点事業 わがまち柏原を学ぶ教育活動の推進

【実施事業 図書館運営事業】

☆質問事項①

「柏原コーナー」について、市民や利用者にとどのようにアピールしていますか。

★回答①

カウンター受付から近い2つの書架を「柏原コーナー」としています。目に付きやすいようにカラー文字で表記しています。

柏原市の古代史から近代史までの歴史に関するもの他、大和川や河内音頭、河内木綿等、自然、伝統芸能や産業に関するものを配架し、閲覧した市民や利用者に柏原市の良さを再認識してもらい、住みたい、住み続けたい町と思って頂ける一助となっていると考えております。

☆質問事項②

昨年度の点検評価による課題等に、「児童の調べ本（社会・理科等）を5年で入れ替えていくこと」とありますが、それについてご説明ください。

★回答②

柏原市立図書館の図書購入費は、ここ数年、柏原・国分の2館で900万円となっています。この限られた予算の中でベストセラー・市民のニーズ等を鑑み、分類別にバランスよく選書・購入し、図書の入替を行っています。

児童の調べ本（社会・理科等）は、どの出版社も10冊以上のセットでかつ高額となっており、価格等の優先順位から10年以上、購入・入替ができない状況でした。

児童の調べ本が、経年劣化していく中、歴史の新事実が判明したり、新しい国が生まれたり、児童が、調べても間違った情報を取得する恐れがあることを財政課に主張し、協議の上、別枠で令和元年度60万円、5年間で300万円の予算を確保し、柏原・国分の2館の児童調べ本（社会・理科等）を購入・入替えていくものです。

◎重点事業 社会教育施設を使用した生涯学習の推進

【実施事業 図書館運営事業】

☆質問事項

ボランティアとの協働事業で市民の参加者が少ないとありますが、その原因は何か。市民へのアピールや情報発信は効果的に行っているか。

★回答

広報誌に事業の開催日の掲載と事業当日にもSNSを発信して参加者を促すよう取り組んできましたが、参加人数には繋がっていない状況でした。

そこで今年度は、ボランティア団体と協議の上、事業の掲示用チラシを作成し、市内の幼稚園、保育所、認定こども園に掲示し、さらに事業の開始時間を児童が参加しやすいよう変更し、参加者が、増えるよう取り組んでいます。

◎重点事業 図書館の活用

【実施事業 図書館運営事業】

☆質問事項①

ヤングアダルトサービスにおける「イベント」について詳しく教えてください。 移動図書館車によるサービスについて、頻度や時間等について教えてください。

★回答①

中高生対象のイベントとして「YA オススメ BON」と称し、おすすめの本のPOP（本の紹介カード）をイラストやアートを取り入れて記載してもらい展示し、ヤングアダルト世代の本の選書の一助となっている。

移動図書館車によるサービスは、全域サービスの一環として、図書館から遠隔地又は来館することが困難である人々に対し、10カ所の駐車場を設け、2週間に1度の割合（月2回）で本館と同様のサービスを提供しています。また、平成27年6月から堅上小学校内グラウンドに出向き、児童サービスの向上に努めています。

☆質問事項②

図書館の利用促進のための人員体制の確立について、どのようなビジョンがありますか。公民館講座などと連携してボランティアを育成し活用してはどうか。

★回答②

図書館職員、学校図書館司書、図書館ボランティアの連携を強化するため連絡会議を開催し、地域における子どもの読書活動を推進するための情報交換等を行っている。さらに、府立中央図書館に講師派遣を依頼し、「子どもの読書活動推進支援員養成講座」を11月に開催し、職員の意識向上とスキルアップを図ります。また、現在、図書館で活動している2つの図書館ボランティア団体と協議の上、講座の開催やボランティア育成について検討して参ります。

☆質問事項③

昨年度の点検評価による課題等に、新図書館システムの導入から利用者の図書館サービスに繋がったとありますが、何がどのように向上したのかをお教えてください。

★回答③

平成30年10月から導入したシステムでは、スマートフォンの専用画面から蔵書検索、予約サービスができる機能と利用者が図書館で過去に借りて読んだ本がわかる読書履歴管理サービスが追加され、利用者へのサービス向上を図っております。

文化財課

◎重点事業 文化財の保存、整備、活用

【実施事業 発掘調査事業、市内史跡等維持管理事業】

☆質問事項①

古市古墳群の世界遺産認定に伴い、柏原市へ見学者を呼び込むための情報発信について具体的な方策は？

★回答①

ホームページの充実や、藤井寺市・羽曳野市の協力も得て、世界遺産見学者の柏原市への誘致を図ります。また、古市古墳群を一望できる市立玉手山公園の活性化などを検討しています。さらに、海外（とりわけ韓国）にはさまざまな情報を発信して、柏原市への来訪を呼びかけていきます。

☆質問事項②

「龍田古道の日本遺産認定はされなかった」とありますが、その理由をお教えてください。

★回答②

令和元年度の認定は、72件中16件で、「龍田古道」は認定されませんでした。文化庁にその理由を確認したところ、地すべりによる景観と万葉歌との関係について説明不足、文化資源の関連が明確でない、景観の保全計画や地域活性化計画が不足などの指摘がありました。

◎重点事業 文化財に関する知識普及と啓発の推進

【実施事業 企画展開催事業、特集展示、文化財講座】

☆質問事項①

大和川付け替え学習に来館する小学生の数が1万人を超えたとのことですが、その要因は何でしょうか。

★回答①

第一に、当館の大和川付け替え学習への取り組みが評価されていると考えております。また、小学校における博物館利用の促進、体験型学習の推進なども影響していると思われます。

☆質問事項②

令和元年度の取組みに、「海外の方々や国内旅行者の来館促進を図る。」とありますが、それを具体的にお教えてください。

★回答②

ホームページ、ポスター、パンフレットなどによる来館の呼びかけ、藤井寺市、羽曳野市の協力を得て、世界遺産見学者の柏原市への誘致を図ります。また、古市古墳群を一望できる玉手山公園の活性化などを検討しています。さらに、海外（とりわけ韓国）には情報を発信して、柏原市への来訪を呼びかけていきます。

健康福祉部

◎重点事業 幼稚園教育の推進

【実施事業 幼稚園施設の修繕、幼保人事交流の実施】

☆質問事項①

「柏原市就学前教育・保育カリキュラム」について詳しく教えて下さい。またそれが市内全施設の幼児教育の指針になるような取組みの具体策はどのようなものですか。

★回答①

平成30年度に改定があった、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の3法令の内容を反映させ、質の高い教育保育を実施するため、公立の幼稚園教諭、保育士により「柏原市教育保育カリキュラム」を平成31年3月に策定しました。

保育無償化に伴い、公民問わず「公教育性」が高まり、保育の質の向上は必須です。

質の向上の方策の1つとして、教育課程・保育課程（＝カリキュラム）にかかる研究は不可欠であり、市として保護者も含めた地域に発信し、地域を巻き込んでいける教育・保育を

実施するために、民間園も含めた柏原市教育・保育カリキュラム研究会において、本カリキュラムの中身について、項目（領域）別の一つ一つを切り崩して話し合いながら保育者一人一人の理解を深めていきます。

☆質問事項②

令和元年度の取組みに、「玉手・堅下幼稚園の休級も視野に入れた検討を進める」とありますが、このことについての説明をお願いします。

★回答②

就学前児童数の減少や保育ニーズ増加に伴い、公立幼稚園の就園児数は年々減少傾向にあります。

玉手幼稚園、堅下幼稚園では、次年度の4歳児が15名を下回る見込みであるため、「柏原市立幼稚園の運営方針」及び「柏原市立幼稚園の運営方針に関する運用指針」に基づき、9月の教育委員会会議において休級についての議案を上程する予定です。

☆質問事項③

新たな課題等に、「柏原市就学前教育・保育カリキュラムが公民を問わず、幼児教育の指針となるよう取り組みを進めていく必要がある」とありますが、このことについてご説明ください。

★回答③

平成30年度に改定のあった、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の3法令の内容を反映させ、質の高い教育保育を実施するため、公立の幼稚園教諭、保育士により「柏原市教育保育カリキュラム」を平成31年3月に策定しました。

保育無償化に伴い、公民問わず「公教育性」が高まり、保育の質の向上は必須です。

質の向上の方策の1つとして、教育課程・保育課程（＝カリキュラム）にかかる研究は不可欠であり、市として保護者も含めた地域に発信し、地域を巻き込んでいける教育・保育を実施するために、民間園も含めた柏原市教育・保育カリキュラム研究会において、本カリキュラムの中身について、項目（領域）別の一つ一つを切り崩して話し合いながら保育者一人一人の理解を深めていきます。

◎重点事業 就園、就学への支援

【実施事業 私立幼稚園就園補助、幼稚園預かり保育事業】

☆質問事項

新たな課題等に、「国の幼児教育・保育無償化制度を市民に周知」とありますが、具体的な予定をお教えてください。”

★回答

令和元年10月から、国の幼児教育・保育の無償化制度がスタートします。これにより、幼稚園、保育所、認定こども園等に通う3歳から5歳のすべての子どもの利用料が無償になります。

制度の内容については、広報誌やウェブサイト、SNS等を活用すると共に、幼保の現場においても、制度概要のチラシを保護者に配布するなど、制度の周知に努めています。

社会教育課

◎重点事業 こどもの交流、連携

【実施事業 青少年健全育成協議会への支援】

☆質問事項

数字が更新されている以外は昨年度の内容とほぼ同じ内容ですが、取り組として改善されてきたことはありますか。PDCAは機能していますか。

★回答

事業内容については、毎年8月に次年度の事業実施計画を作成し、その計画に基づき取り組んでおります。計画の作成を行う際に昨年度の事業成果を含め内容検証を行い、改めて事業計画を立案し、次年度において事業の取組みを行っております。今回の改善した内容は、社会教育関係団体への補助金についてです。市として各団体の要綱を作成し補助交付を適切に行うよう努めました。

◎重点事業 家庭、地域、学校の連携

【実施事業 P T A活動や青少年健全育成協議会への支援】

☆質問事項

PTA活動への支援の具体例をお教えてください。

★回答

各校P T Aの活動においては、春と秋の交通安全週間に通学指導として、それぞれの通学区にP T A役員が立つなど、地域の方々と一緒に子どもの見守り活動をしています。柏原市P T A協議会ではスポーツ大会及び全体研修会を開催し、行事を通じて単位P T Aのみならず他校区との情報交換・情報共有を行ってもらい、横とのつながりで交流を深め、より一層、児童・生徒の健全な発育と、よりよい教育環境の発展をはかっています。

◎重点事業 学校支援ボランティアの充実

【実施事業 柏原市放課後子ども教室推進事業】

☆質問事項①

主な取組み状況に「企業プログラムの活用」とありますが、その内容と効果をお教えてください。

★回答①

放課後子ども教室において、子どもたちのより豊かな学びや体験ができるよう、企業・団体の協力を得て専門的なスキルやコンテンツを活かした出前プログラムが大阪府教育庁を通して紹介されている。各教室での取組みが多彩になる、普段では体験できない取組みができるといった効果がある。

☆質問事項②

今後の方向性に「各会に出向き、助言・サポートを行う」など、3点の方向性が示されていますが、その内容を具体にご説明ください。

★回答②

各放課後子ども教室の活動に視察に出向き、プログラムの紹介をしたり実施するにあたっての相談を受けたりしていく。府から紹介されているクラフトや企業・団体プログラム等を各教室で実施できるよう調整するとともに、実施の際にも視察に行き、参加者の様子や地域ボランティアの感想を聞き、次回につなげていく。

◎重点事業 青少年講座の充実

【実施事業 青少年講座等開催事業】

☆質問事項

成果指標の各種講座の参加率についてご説明ください。

★回答

昆虫観察講座は定員15名/参加8名、歴史講座は定員15名/参加11名、科学講座は定員20名/参加11名、星空観察講座(夏)は定員70名/参加70名、同講座(春)は定員70名/参加70名、革細工講座は定員20名/参加13名、つり教室前期は定員20名/参加8名、つり教室後期は定員20名/参加14名、釣り教室千早川実習は定員60名/参加20名です。合計で310名定員の、参加225名です。

◎重点事業 社会教育施設を使用した生涯学習の推進

【実施事業 生涯学習情報の提供】

☆質問事項

「生涯学習情報のニュース」の廃止について、市民からの意見があればお教えください。

★回答

直接のご意見は特に頂いてはおりません。必要な情報を広報かしわら及びWEBサイトで随時掲載しており、情報が十分周知できるよう努めております。

スポーツ推進課

◎重点事業 生涯スポーツの振興

【実施事業 生涯スポーツ推進事業】

☆質問事項

「柏原の自然を活かしたアウトドアスポーツの普及」について具体策はどのようなものでしょうか。柏原市内の自転車フレームメーカーとの連携はありますか。

★回答

本市は大阪中心部の天王寺から電車で約20分という都市の近郊にありながら、大和川や高尾山など自然環境に恵まれていることから、自然志向の子育て世代の方々にとっては、魅力的な環境であると考えております。

そして、このような環境と立地といった地域資源を活かす一つとしまして、アウトドアスポーツを、お手軽、お気軽に、始める、楽しむ、体験できるまちとする方向性もあるのではないかと考えております。

まず、本市の自転車産業との協働として、産業振興課では、関連する市内民間事業者とともに、観光スポットや名所を巡るサイクルツアー事業を実施しております。また、スポーツ推進課では、大和川を活用したカヌー教室を今年度、新たに実施いたします。今後は市内外を問わず、アウトドアに興味を持つ方々に、アウトドアスポーツを体験・経験できる場所を提供することにより、市のにぎわいの創造と活性化に努めてまいりたいと考えております。

◎重点事業 スポーツ環境の充実

【実施事業 体育施設整備、体育施設管理】

☆質問事項①

堅下北スポーツ広場の市民への周知について、どのように進めるか？

★回答①

平成31年4月1日にオープンしました堅下北スポーツ広場の市民への周知につきましては、広報誌、ウェブサイト、SNSを使いまして、広く市民に行っております。

施設の利用状況につきましては、グラウンドは、野球を中心に、ソフトボール、ラクロスなどに利用されており、土日祝日は、ほぼ予約で埋まっている状況でございます。

一方、多目的広場につきましては、小中学生は、キャッチボール、サッカーの練習などに、大人の方はキャッチボール、ジョギングなどに、親子連れの方は、ボール遊び、バドミントンなどに、そして、高齢者の方は散歩などに利用いただいております。しかしながら、利用人数は毎月200～300人程度で推移しておりますため、今後は、広報誌等での周知に加えまして、現地に大きな看板を設置して、周辺住民や通行される車、歩行者に対しましても広報を行い、施設の利用促進を図ってまいりたいと考えております。

☆質問事項②

堅下北スポーツ広場の、現在の全般的な状況と今後の予定や展望をお教えてください。

★回答②

平成31年4月1日にオープンしました堅下北スポーツ広場は、施設を安全に運営するために、現地にシルバー人材センターに委託して管理人を常駐させ条例で規定された午前9時から午後5時までの開場時間について、施設の管理運営を行っております。

利用状況として、まず、グラウンドにつきましては、野球を中心に、ソフトボール、ラクロスなどに利用されており、土日祝日は、ほぼ予約で埋まっている状況でございます。

次に、多目的広場の利用状況を世代別で申しますと、小中学生は、キャッチボール、サッカーの練習などに、大人の方はキャッチボール、ジョギングなどに、親子連れの方は、ボール遊び、バドミントンなどに、そして、高齢者の方は散歩などに利用いただいております。

今後の予定としましては、年間の利用人数や利用料収入が把握できました後に、指定管理者制度の導入を検討したいと考えております。

また、開場時間につきましても、時間延長を望まれる要望がございますため、検討してまいりたいと考えております。

学務課

◎重点事業 安全、安心な給食施設の維持、運営

☆質問事項

「安心、安全な給食であるだけでなく … 有意義な給食にしていく」の具体策は何でしょうか。

★回答

毎年、教育委員会、学校、給食センターと連携を図り、食育の取組みも進めております。地産地消を意識した地場産の食材を積極的に採用した献立や、日本の郷土料理、世界の料理が紹介できる献立を通して、食に興味を持たせる取組みをすすめております。また、児童、生徒から栄養バランスを考えた献立メニューを募集し、採用することで、食への興味をもたせています。将来、食を大切にし、健全な食生活を営む児童生徒を育成できるよう、与えられたものを食することにとどまらず、学校給食を通して、食に対する理解を深め、学校給食に積極的に関わることができるよう工夫を重ねております。

◎重点事業 学校給食の充実

【実施事業 アレルギー対応の教職員の研修実施】

☆質問事項

食物アレルギー対応マニュアルの策定について、経緯や内容について教えてください。

★回答

平成26年に、中学校給食が導入されるにあたり、小中学校対象に「食物アレルギーに関する調査票」をとり、アレルギーの実態把握を行いました。アレルギーの状況は成長とともに変化するため、柏原市では毎年調査表の提出を求めています。また、学務課から雛形を示し、各小中学校において食物アレルギー対応マニュアルを作成するように指示しました。内容としては、主に緊急時の対応について明記しており、校内で全職員共有するよう、管理職と養護教諭に指示しております。昨年度より、藤井寺市柏原市給食センターとともに、両市で統一した対応マニュアルの作成に取り組んでおり、令和2年秋の完成を予定しております。

◎重点事業 部活動の活性化

【実施事業 運動部活動補助指導員派遣事業】

☆質問事項①

主な取組み状況の中に、「運動部活動補助指導員の募集では、2件の応募があった」とのことですが、その後の経過をお教えてください。

★回答①

この応募者については、学校の希望するクラブと応募者の指導希望クラブが一致しなかったため、採用には至っておりません。部活動補助指導員については、公募よりも退職者や地域人材等のつながりから、指導員へと至るケースが見受けられます。

☆質問事項②

今後の方向性に「部活動の顧問業務が過重とならないような方策を検討する」とあります

が、今後について、府の方針を含めて教えてください。

★回答②

平成31年3月に大阪府教庁の方針を受け、「柏原市立中学校の部活動の在り方に関する方針」を策定し、適切な休業日及び活動時間の設定を示しました。「1日の活動時間は平日2時間、休業日は3時間とする」「学期中は週あたり2日以上以上の休養を設ける。平日は少なくとも1日、土曜日および日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする」等、具体的な基準が示されました。指導課とともに平成30年秋から中学校長会に説明に行き、実施について協力を求めました。実施状況については、管理職と事務職員が連携し、部活動手当申請と出勤簿、勤務時間管理簿を一致させることで、顧問業務過重にならないよう協力体制をとっています。補助指導員を活用している学校もあります。

指導課

◎重点事業 教師間連携

【実施事業 幼・小・中一貫教育推進事業】

☆質問事項①

今後の方向性の幼小中を貫く外国語教育の推進について、取組方針を教えてください。

また、クラスルーム・イングリッシュ集発行後の成果や課題を教えてください。

★回答①

英語教育推進教員（幼小中一貫教育推進教員）及び中学校の英語科教員との連携によるサポートにより、小学校学級担任の英語指導能力を向上させ、新学習指導要領と市の実情及びニーズに応じた研修を実施することにより、児童生徒が英語を使った言語活動を充実させることをめざす。クラスルーム・イングリッシュ集については、昨年、英語の教科免許を所有していない小学校教員から好評であったが、今年度引き続き活用されているかどうかは把握できていない。作成するだけでなく、実際に活用した教員の意見を反映していきながら、改訂を重ね、周知し続けていくことが大事であると感じる。

☆質問事項②

令和元年度の取り組みに「ICTを活用した授業、特に道徳、英語の授業と評価についての理解を深める」とあるが、どのような計画か。

★回答②

本年度はICTの導入に伴い、ICT活用推進準備委員会とICT教育推進リーダー会を立ち上げ、機器を有効に活用した分かりやすい授業づくりの研究を行っている。道徳については、本年度より中学校も教科化になったということで、道徳教育推進教師連絡協議会において、先に教科化した小学校と意見交換しながら、評価の在り方について研究している。英語については、次年度より小学校高学年で教科化になることを受け、市教委主催の研修はもとより、英語教育推進教員と中学校英語科教員の連携の下、授業づくり及び評価の研究を行っている。

◎重点事業 家庭、地域、学校の連携

【実施事業 学校園教育推進事業】

☆質問事項

学校園教育推進事業補助金交付要綱の見直しによって、何が変わったか。

★回答

事業内容自体が変わったわけではないが、要綱の見直し及び提出書類の統一により、より目的に応じた適正な予算執行が期待できると思われる。

◎重点事業 中学校区の特色ある教育の推進

【実施事業 幼・小・中一貫推進事業】

☆質問事項

毎年、教師の負担感が問題にされているが、どのように改善するか。

★回答

市教委として様々な取組みを進めているが、本課としては「柏原市立中学校の部活動の在り方に関する方針」に基づき、教員・生徒ともに、週の平日に1日、土日に1日を基本として、適切な休養がとれるように指導している。

◎重点事業 府教委や市教委の学力向上方策

☆質問事項

結果の公表をどの程度まで行うか。

★回答

全国学力・学習状況調査及び大阪府中学生チャレンジテスト、かしわらっ子はぐくみテストの結果については、各教科において平均正答率の全国・府との比較をはじめ、年度比較や同一児童生徒集団比較を行い、併せて質問紙調査の結果についても同様に行う。公表は教育委員会議及び校園長会を経て、指導課ホームページにおいて公表する。なお、学校単位での結果公表は行わない。

教育総務課

◎重点事業 施設一体型一貫校の設置計画の推進

☆質問事項

今後の一体型小中一貫校の設置の見通しは？

★回答

平成28年9月に策定された柏原市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針におきましては、柏原中学校区では平成37年度を、また国分中学校区では平成43年度を一体型小中一貫校の設置の目標年度としておりました。柏原中学校区におきまして、設置の検討を進めておりましたが、熊本地震の発生を受け、柏原中学校区1中2小の耐震化工事を実施したことに加え、近年の猛暑から全小中学校の普通教室への空調設備設置を進めておりますことも踏まえ、平成28年9月に策定された柏原市立小・中学校適正規模・適正配置基本方針が見直しの時期に来ておりますことから、施設一体型一貫校の設置計画の目標年度につきま

しても再検討する必要があると考えております。なお学校規模の適正化を図るため、国分東小学校につきましては、令和2年3月31日をもって廃校し、国分小学校に統合いたします。

◎重点事業名 安全、安心な施設環境の構築

【実施事業名 小中学校教育振興事業】

☆質問事項

I CT機器の導入の展望（予定など）を教えてください。

★回答

平成31（令和元）年度におきましては、各小中学校のPC教室のパソコンの入れ替え、並びに指導者用パソコンの配備を実施します。次年度以降につきましては、モデル校によるICT機器を活用した教育の取組みを検討してまいりたいと考えております。

◎重点事業 安全、安心な給食施設の維持、運営

【実施事業 学校給食組合負担金】

☆質問事項

課題として、施設の老朽化や耐震化をあげられているが、改善のための今後の展望や予定を教えてください。

★回答

施設壁面については、経年劣化による亀裂などが発生しているため、4カ年で外壁塗装の補修を計画。平成30年度では第1センター西側・南側の外壁について塗装補修を実施される。

以上の質疑応答を踏まえ、ヒアリングを実施した。ヒアリングの内容は次のとおりである。

IV 個別ヒアリングの状況について

第1回柏原市教育委員会の事務の点検及び評価に関する評価員会議において、個別に質疑応答形式によるヒアリングを実施した。ヒアリング内容は以下のとおりである。

[評価員の意見の各課の回答など]

<公民館>

【質問】

令和元年度の受講者数695人に対して、実際は平成30年度の受講者数が350人程度です。目標値が450人とのことですが、その根拠は何でしょうか。

【回答】

講座の定員は、その部屋にどれだけ受講者が入ることができて、講座が成り立つのか、また、1講座に10人以下の申込みであると、講師と相談いたしまして、7、8人でも開講したりしております。また、過去の申し込み率も勘案し、現実的な数字で算出しております。

【要望】

終活とスマートフォン講座ですが、どんな内容だったのか、興味があったもので、ぜひとも私も受けたかったんですけど、時間帯が気になります。お仕事されている方は、休暇をとって行かないといけないのが、残念に思います。

【質問】

貸館有料化された収入はどのように使われますか。

【回答】

貸館有料化に伴う収入は、公民館の施設管理費の一部に充当しております。

<図書館>

【質問】

図書館の取組みは、高く評価しております。新しいものを作り出したいという方向で努力されているのが、よく伝わってきております。応援したいなという気持ちでおります。若い人達が、図書館に関わるようにと、コーナーを設けてらっしゃるということなんですが、詳しくお聞かせください。

【回答】

たとえば、4月からの試みですが、まんがであったものが小説化されたものを、積極的にアピールをして、新書と同じところに、来館者の方が見えやすいところに配架しております。なるべく若い方に、手にとっていただけるような努力をしております。

【質問】

フェイスブックやSNS等を通じても発信しておられますが、その状況を教えてください。

【回答】

ツイッターにより、本日はこんな事業がありますとか、読み聞かせがあります等と、そ

ういう形でお知らせしております。来館者には、お母さんが子ども連れでという方も多いので、より、目にとまるような形を工夫しております。

【質問】

広報活動による広がりの効果は、どのような感じでしょうか。

【回答】

私立を含めて市内の幼稚園、保育所、認定こども園において、図書館で事業がある際に事前に、掲示していただいて、たとえば読み聞かせですが、ボランティアと図書館と協同で行っている事業は、児童の参加が増えております。また、それに伴い、来館者も増えており、今後、継続してやっていこうと考えております。また、近隣の幼稚園等の児童が、帰宅する時間に合わせて、読み聞かせの事業を午後2時からにする試みも、広報誌にも掲載させていただきました。

【質問】

児童の調べ本（社会・理科等）を5年間で入れ替えていくよう、予算の確保に努めていらっしゃることに嬉しく思います。蔵書検索とか予約サービスとか、スマートフォンで、いろいろなものが見られて、自分の借りた本の記録までできるのは、非常に素晴らしいことですが、このようなことは、近隣の他の図書館でも行っているのでしょうか。

【回答】

これまで、パソコンの画面からしか見られなかった過去の借りた本の記録がスマートフォンから見られるようになりました。また、本の予約もできるようになっております。近隣の他の図書館でも同様のシステムを導入されていると思います。

【質問】

価格の優先順位とは、何ですか。

【回答】

柏原図書館と国分図書館で、だいたい24万冊の本があります。900万円の予算の中で、1館あたり450万円分しか蔵書を刷新する予算がありません。これを他の市町村の図書館から見ると、少ない。ベストセラーや図書館司書からの意見、市民からもこういう本を入れてほしいという中で、選別して、哲学、文学などいろいろな分類の本を予算を見ながら入れております。児童の調べ本につきましては、だいたい複数冊になっておりまして、優先順位をつけたなかで、なかなか、そこまで手が回らない状態です。ただ、そういう調べ本が古いということは、学習するには、問題があるのではないかと、昨年の図書館協議会でもご意見をいただいております。国立図書館とかになると、15%とか20%くらいは、本を入れ替えているということなんですが、本市の図書館は、4%強にとどま

っているので、本をもっと購入できる魅力ある図書館になるように、そこは、財政部局とも予算を考えていきたいと思えます。

【質問】

はっきりいえば、予算の都合でということですね。もうひとつ、ボランティアとの協働事業で、市民の参加が少ないことが課題とありますが、その原因はどう考えておられますか。

【回答】

学校司書と図書館ボランティアにお話し会をしてもらっています。もちろん、天候が原因の場合もあるのですが、少ない時は、2人くらいの時もありまして、もっと集客するため、市内の幼稚園と私立を含めての保育所、認定こども園にチラシを掲示してもらうことにより、若干増加しております。

【要望】

兵庫図書館では、夏休みに図書館の閉館後、お化け屋敷をやったり、町で子ども達の遊び場があったら、出て行って、青空図書館をやったりしています。柏原市の図書館にも、もっと可能性があると思えます。ぜひ、頑張ってください。

<文化財課>

【質問】

古市古墳群の見学者を呼び込むため、柏原市として、玉手山公園のルートというのは、もう完成していて、それをどうアピールするかということでしょうか。

【回答】

はい、そうです。柏原市へ誘致するようなルートとして、現在、柏原市で取り組んでおりますのは、道明寺駅から歩いて玉手山公園へ行き、展望台から古市古墳群が一望できますので、このルートは、ぜひ、柏原市として薦めていきたいと考えております。藤井寺市、羽曳野市とも交流がありますので、このルートの推薦をお願いしております。

【質問】

小学校からたくさん来館されているということですが、働きかけはどのようにしているのですか。

【回答】

東大阪市、八尾市は、各市内全学校に教育委員会を通じて、チラシを送らせていただいております。ある先生が引率で一度来館されて、他の学校に移られて、また新しい学校で引率で連れてきてくださるとか、学年順送りで見学されることが多いですが、昨年行ってみてよかったから、また今年も行ってみようとか、少しずつ広まってきているのではないかと推測しております。

【質問】

ぜひ、多くの子ども達に来ていただいて、多くの学校に見ていただけたらと思います。キャパとしては、まだまだいけるんですか。

【回答】

多い時には、1日に10校くらい来館されます。研修室の床に座ってもらって、150人くらいがいっぱいなんですけど、多い時で一日5回くらい入れ替えます。展示室に50人、100人とか入っても見学になりませんので、研修室で大きな写真パネルとかにしまして、展示のここを見てもらったら、こういうことがわかりますよと説明します。このような内容を4、5回説明しておりますので、説明する側も大変なのですが、もう少しは受入れが大丈夫だと思います。8月1日から電話で受け付けさせていただくのですが、2時間くらいは、2台の電話がずっと鳴りっぱなしです。大和川の学習のことなら、柏原市に行こうということが、定着しております。

【質問】

可能であれば、学校の先生に宛てて、こういう展示があると、こんな学習ができますよ、とアピールして呼び込むことが可能なのかなと思います。

【回答】

今年は、学校の先生向けの講座を開催します。こういう風に授業として進めていただくとか、資料館を利用していただく方法がある等と説明をした後、実際に歩いて、見所、ポイントを先生方にお示しするという講座を考えております。これまでも、依頼されてやることがありましたが、今回は初めて自主的にやろうということで、その案内を下見や申し込みに来られた学校にはお配りしております。どれくらい人が集まるかわかりませんが、そういうことも計画しております。

【質問】

道明寺、玉手山、龍田古道について、海外からの観光客の方もこちらに呼び込むことには、どう考えておられますか。

【回答】

市の観光部門は、産業振興課が担当しているのですが、数年前までは、それぞれで働き

かけをしておりました。ただ、現在では、龍田古道の件でも一緒にやっておりますし、そういう意味では、横の連絡、企画部門もあわせて密になってきていると考えております。

【要望】

玉手山古墳群の活性化においても、横のつながりは重要です。通路の整備であるとかも含めて一層の連携を望みます。

<社会教育課>

【質問】

各種社会教育団体でたくさん事業があるわりには、評価シートの記述は、昨年とほぼ同じ内容で、どんな風に取り組まれているのかと気になりました。事業内容の検証を行って、たとえば、社会教育団体補助金の交付について改善したということですが、具体的に説明をお願いします。

【回答】

事業内容について、検証いたしまして実施計画というものを出し、予算化し事業を進めているところでございます。内容につきましては、市民からの要望、担当者の考えも含めて、効果があるか、公費を使って進めていくことができるかどうかというところで判断させていただいております。まず一点、社会教育団体補助金という部分では、補助金を交付させていただいている団体の見直しをさせていただきました。

青少年指導員、PTA協議会、こども会、青年会協議会、リーダー指導者会、健全育成会という6つの団体の補助金を交付しておりますが、設立の目的、趣旨を確認しながら、補助金を出して運営していただける団体かどうかをあらためて、各種の活動、総会など中身をしっかり検証させていただいて、補助金を交付できる団体を明確に位置付ける意味での要綱を作成しました。

【質問】

行政の仕事として前例踏襲するだけでなく、仕事の目的を確認しつつPDCAを回していけないといけないと思いますが、そのような取組みがうまく示されていないように思えます。どのような目標をお持ちですか。

【回答】

基本的には、社会教育団体は、必要であると考えております。団体の協力なく、社会教育というものは成立しないものと考えておりますので、そうした意味では、市民の方、ボランティアの方の力もプラスしながら、進めていきたいと考えております。

今後の活用やあり方を検証したというのが、大きなポイントであって、今後とも引き続き、継承していきたい。

【要望】

社会教育というのは、ものすごく大事だと思う。特に日本の場合は、ヨーロッパに比べると、社会教育の力が弱くて、学校教育に偏りすぎている。もっともっと地域や家庭や既存の団体のケアだけに終わらず、もっと社会教育全体が、活性化するように、ぜひ、頑張ってくださいと思います。

【質問】

企業プログラムについての受付は、社会教育がなさっているんですね。このことを「のびのびルーム」の方々とかはご存じで、スムーズな流れになっているのですか。企業プログラムというのは、どの程度、活用されているのか説明してください。

【回答】

昨年度くらいから、企業プログラムが、大阪府の会議などでも出てまいりまして、各学校、健全育成会とか、放課後こども教室とかに活用していただければと、年2回の総合会議や連合の総会でご紹介させていただき、委託料をお渡しする際にもこういった活用について積極的なアプローチをとご紹介させていただいております。

受付は市でしており、「のびのびルーム」のご担当者様、役員などで決めていただいて、社会教育の方で、日程調整をしています。

昨年度初めて実施しまして、動物愛護管理センターの主催であります動物なかよし教室を国分東小学校で、1回実施をさせていただきました。

こどもミュージアムプロジェクト運営事務局から、指導者、役員向けのプログラムとして活用したいと申し出がありましたので、ご紹介させていただきました。

ダイードリンクからペーパークラフトのものが有りますと、玉手小学校で秋に今後行う予定です。

今まで同じような内容が続いているので、新しいことも取り入れていきたいという声が各役員からもありました。

【質問】

この流れでスムーズにいくのかなと思います。段取りが難しそうに思います。プログラムまでの活用の流れ、約束事がありますが、会社で働いているお母さん、お父さんが各「のびのびルーム」でやる時、難しそうに思います。よほど、社会教育課がリードしてあげないといけないように思います。ある程度やって、ルールができれば、みんなも使うでしょう。そこへ行くまでは、社会教育課が苦労していただかないといけないと思って、昨年からのいろいろ聞かせてもらってきました。今、こうして企業プログラムの活用が増えてきているのでいいのですが。実施した結果、皆さんの反応はどうでしたか。

【回答】

昨年度の国分東小学校は、たとえばうさぎを連れてきたり、家で飼えないことがあり、触れることがだんだん減ってきていたので、スタッフが安全に対する注意をはかりながら、校長先生、教頭先生も来られました。よかったということで、今年も申込がありましたし、また、周知もはかっていかないといけないということで、私どもで仲介させてもらって、それができ次第、直接と考えております。

【要望】

大阪府へのプログラム申込は、各団体が直接電話できないことになっています。のびのびルームであろうが、その人の苦労を取り除いていかなければ、なくなってしまうと思います。そこを支えていただき、いろんな団体に対しての支援をしていただくうちの一つがこれなのかなと思います。今後、楽しみにしていきたいと思います。

【質問】

青少年の講座については、どのような宣伝方法がありますか。

【回答】

広報、フェイスブックなどに掲載していき、参加率が上がってきていると感じております。

<こども政策課・こども育成課>

【質問】

就学前カリキュラムについて、民間も含めた共通のカリキュラム研究があるとのことですが、どれくらいの規模、回数で予定されているのですか。

【回答】

市立の保育所、民間の保育園、小規模の保育園他、柏原市のくくりの中にある全園から、一人ずつ代表者に出ていただきまして、年間8回、大阪総合保育大学の先生をお招きいたしまして、実施しております。

【質問】

全員で何人くらい集まるのですか。

【回答】

全員で24人です。

【質問】

カリキュラム管理は、小規模に対しては、内容的にどうでしょうか。

【回答】

規模の小さい園も特に問題なく参加していただいております。

【質問】

私立の幼稚園との連携は、一度にカリキュラムを作るというのは、難しくスムーズに進まないのではという懸念があります。現在は、公立と私立の幼稚園は、うまくいっていますか。

【回答】

柏原教育・保育カリキュラムは、幼稚園教育要領や保育所指針に則って、基本はその部分を柏原市に置き換えておりますので、民間園であろうと、公立であろうと、そこは、順守しなければならない部分でございます。各園、自分のところの教育課程を特色をもって組み立ててきますが、日本全国共通のものは、順守していかなければならないという雰囲気になってきておりますので、抵抗がないように感じます。そういう研究会があるのなら、ぜひ、うちも参加させてということで、まとまっております。

<スポーツ推進課>

【質問】

アウトドアスポーツの普及ということで、高知県は、代表的なメッカみたいなどころがありますけれども、柏原市はどんなイメージでされていますか。

【回答】

まだまだ取組みを始めたところなので、足摺岬とかそうしたところと比べものにならないのですが、大阪市内に近い割には、自然があります。産業振興課とも近年、アウトドアを開拓していこうかなと、それで、親しみを持っていただければと考えております。

【質問】

産業振興課からもいろいろ聞かせてもらっています。山も川もありますし、サイクルス

ポーツのメッカとして、ぜひ、頑張ってくださいたいです。堅下北スポーツ広場の周知なんです、ほぼ、予約が埋まってきているということなんですか。

【回答】

どうしても社会人の方が中心となりますので、平日は、予約は空いております。これは、どうしてもそうなるんですけど、休日と土日祝日が埋まるか埋まらないかというところがポイントなんです。ひと月前から予約できるのですが、予約初日の朝は、スポーツ推進課のカウンターで申込みの方が何人か並ばれて、場合によっては、抽選をして、最終的には、土日祝日は、ほぼ埋まっております。

【質問】

これからもそういう方向でされますか。

【回答】

もう少し、明るい時間帯は、時間を延長していこうかと考えております。

【質問】

時間延長ということで、照明をつけるのかなと思ったのですが。

【回答】

今年後5時までなのですが、冬場になりますと5時でも暗いです。恩智川の遊水地の上にグラウンドを整備しているのですが、ナイター設備を作れないという問題もあります。春夏の間、9時から5時まで開場時間をせめて6時までできれば、あそこは、シルバー人材センターの方を1名置いて管理しているので、人件費もかかるのですが。小学校の高学年のお子さんでも、今では学校終わってすぐ来ても5時で終わってしまうということがあるので、1時間でも長ければ、多目的広場の方も利用しやすいかなと思っております。

【質問】

指定管理者制度の活用は考えておられますか。

【回答】

最初から指定管理者制度を入れる施設かなと思うんですが、利用実績がないと、民間に指定管理者として募集した時に、どれくらいの収入、利用があるかということが、お示しできないので、最初は直営でやらせていただいて、年間これだけの利用があると分かった時点で、いずれ指定管理者制度に替えていくことになると思います。

【質問】

スポーツ環境の充実の成果指標について、市内スポーツ広場整備に伴う年度内業務が

100%となっていますが、何を意味していますか。

【回答】

昨年は、堅下北スポーツ広場を整備して、それで100%であるということを目指しておりました。今年は、新しい設備を新たに用意していくという部分で備品であったり、細かいところが不十分なところがあるので、そういった考え方で設定いたしました。

【質問】

市民の方に公開された時に、何のことなのかわかるように、数値で示すのは非常に難しいと思うんですが、達成度が求められるのであれば、人数でもいいと思いますし、わかりやすい数字で示すように考えてください。

【回答】

別の成果指標を検討します。

<学務課>

【質問】

中学生が考えた給食メニューは、どんな風に募集するのですか。

【回答】

学校によって、取り組み方は違います。家庭科の夏休みの宿題で考えてきてくださいというのがありますし、家庭科の授業で、食事のバランスを考えるという中で、たとえば、給食だったらどんなメニューが考えられるかというのがあります。

【質問】

地場産物使用実績も表示があるのですか。生産者の顔が見える、誰が作っているとか物語に興味を持ったり、いいことですね。

【回答】

給食献立カレンダーやお昼に校内放送でも知らせております。

【質問】

アレルギー対応のマニュアルで、項目内容はどうでしょうか。

【回答】

柏原市と藤井寺市でアレルギーの把握の仕方が違い、なかなか難しい状況です。柏原市の方が細かく設定しているものがある一方で、藤井寺市の方が細かいものもありまして。統一するという点についても、意見が分かれているところです。

【質問】

教育委員会がリーダーシップを出さないといけないですね。

【回答】

難しいところです。いろいろな考え方があります。今回、給食センターが入ってくれたのですが、難しい雰囲気があります。各学校に配付しておりますフローチャートは、何かありました時に全職員が行動できるように、研究、作成いたしました。

【要望】

2市で一斉に作るよといったから難しいだろうと思いました。アレルギー対応を間違えと命にかかわることもありえます。2市で一斉に作るのであれば、両市で吟味してください。

【質問】

運動部指導員ですが、学校で採用しているところもあるようです。この方については、報酬が出ているということで、その報酬が部活動の活性化の成果指標の中学校クラブ活動補助金ですか。

【回答】

それは違います。クラブの活動そのものについての補助金です。

【質問】

指導員の募集を行いということだから、これを募集したら報酬は出ますよね。

【回答】

採用されたらということになります。

【質問】

運動部指導員の採用の流れについて説明してください。

【回答】

学務課でしているのは、人を募集して、部活動については、指導課が担当になっているので、指導課に紹介します。あとは指導課が学校とやりとりすることになります。

【質問】

週2回の青色防犯パトロールを各課と協力しながら、の「各課」というのは、教育委員会の中の課ということですか。

【回答】

そうではないです。市役所全部ではないですが、人数が多い課を中心にお願いしています。

<指導課>

【質問】

I C Tを活用して道徳と英語を改善するということではないのですね。

【回答】

道徳、英語だけではないです。

I C Tは、校務支援システム、慣れるまでには一定労力がかかるというご批判も出てきます。他市の例でも、一年目は批判だらけで、2年目以降は批判のようなことはなくなってくるという聞いております。

【質問】

学校園教育推進事業補助金交付要綱が4月から新しくなったということですね。

【回答】

要綱について様式等を含めて見直しを行いました。

【質問】

部活動の教員のお仕事全般的に大変だなというところですが、そのあたりで取組みは何かありますか。

平日1日休養は、ほぼできているのですか。

【回答】

保護者の方からも様々な要望がありますが、ご理解いただけるような形で、調整して取り組んでおります。

原則として基本、平日1日は、休みをとっております。

子どもの体力、教員の働き方において、過重な長時間休みをとれないという国全体の動きを経て、実質練習時間、休日の扱いは、ホームページや各学校から保護者の皆さんに、

周知させていただいております。

【質問】

全国学力・学習状況テストの結果は、市単位の公表はするが、学校単位ではないのですね。成果指標の数字が入れにくいのですか。昨年と同じ数字を入れているのは、結果がまったく同じということですか。

【回答】

学校単位では公表しません。

成果指標については、目標としては同じで。平均値を越えることということでございます。

<教育総務課>

【質問】

小中一貫校ですが、もう一校作るのですね。

【回答】

適正規模・適正配置基本方針の中で、柏原中学校区に一つ、国分中学校区に一つの計画だったのですが、全小・中学校の耐震化がすべて完了し、空調設備につきましても、中学校の普通教室は平成30年度末までに、また小学校の普通教室にも令和元年度中に全校に設置されます。国庫補助金も受けておりますので、今後10年以上は現状の学校のままとなります。この計画がなくなるわけではありませんが、適正規模・適正配置基本方針見直しの中で再検討が必要となっている状況です。

【質問】

ICTについてですが、指導者のパソコンは、パソコン教室だけですか。

【回答】

いいえ、教員用のものです。夏休み中に工事をしております。

【質問】

モデル校とは、指導課と連携してでしょうか。

【回答】

教育総務課は、物品の購入の担当となりますので、今年度はこういう機器を、来年度は

こういう機器を入れ替えますというように、良いものを導入しても十分に活用できないといけませんので、企画や財政課とも協議のうえ、モデル校を入れて進めていきたいと考えております。最終的には、3クラスに1クラス分のタブレットを入れて、それを使って子ども達が学習できる環境を考えております。

【質問】

給食センターは、補修をしながら、いつかは耐震化に進むのかと考えておりますが。

【回答】

当組合の管理者は藤井寺市となりますが、本市といたしましても協力して耐震化の方法も含めて計画をしていかないとと思うのですが、給食を休止することはできず、工事の内容によっては雨水や鳥などの侵入も考えられるため、慎重に計画する必要があると考えております。

【質問】

堅下北中学校を除く全中学校の空調設備設置工事を行ったといいますのは、どういうことでしょうか。

【回答】

堅下北中学校は、受変電設備更新の都合上、一年先んじて設置工事をしております。

【質問】

市内の小中学校全部ですね。

【回答】

国分東小学校は、統合となるので、設置はありません。

V 点検・評価に関する学識経験者からの評価・意見

(1) 手取 義宏 氏 (大阪教育大学教授)

教育委員会の業務についての点検評価が始まって数年たちました。外部の立場からの意見を取り入れていただいて業務内容を見直して来られたことが、多くの業務改善につながってきたことは確実です。社会的にもP D C Aサイクルという言葉とともに仕事の見直しと効率化を求める動きが高まっており、この点検評価も市教委の各部署でP D C Aサイクルを回す作業とつながっています。

特に常に市民に対する直接的なサービスを提供している図書館や博物館などにおかれて

は、市民のニーズと向き合いながら改革や改善に取り組む姿勢を堅持しておられて、その努力には頭が下がる思いです。

また、学校教育や就学前教育を支え動かしている多くの部署についても、多くの困難な課題を抱えつつ、地道な取組みを続けることで市民に対しての責任を果たそうとされていることは間違いないと思われま

す。ただ、特に今回感じましたのは、この点検評価のあり方が少し形骸化してきているのではないか、また点検評価を行うために逆に職員の方々の負担が大きくなり過ぎてきているのではないかと、ということです。次年度以降はより効率的で実質的な点検評価につながるよう

に、点検評価のあり方そのものの改善もご検討いただくことを要望いたします。

(2) 青木 進 氏 (元柏原市立小学校長)

「柏原市教育振興基本計画」、教育委員会が行っている「基本方針1～4」に則り、取組状況、点検と自己評価、現状と課題、今後の方向性の設定を行い、事業の目標達成に向けて努力されていることに、敬意を表すとともに所見を述べたいと思います。

まず、各教育施設の取組みとしましては、利用者の立場に立った思いを大切にされ、その上での改善策を事業実施の中に取り入れられているように感じました。このことについても、評価したいと思います。今後も PDCA サイクルを実施し、点検と自己評価の継続とともに、短期・中期などの適切な期間の目標設定のもと、よりよき事業実施に向けた改善に取り組まれることを期待します。

次に、基本方針3.「社会全体で健やかな子どもを育みます」に関わっては、家庭教育力の向上、青少年健全育成活動の推進など、地域の各種団体やボランティアとともに取組みを進められていることについて評価したいと思います。今後は、各種団体などへ、行政としての立場からの支援や指導性を一層発揮されることを期待します。

次に、基本方針4.に関わってですが、教育施設の耐震化に関わる取組みが進められていることを評価いたします。ここ数年、全国的に地震、大雨、台風による甚大な被害が生じている状況にあります。「安全・安心で、質の高い教育環境をつくります」のもと、各施設における耐震や点検補修など、適切な対応を期待します。

最後に、各課よりの点検評価事業シートについてですが、様式や記入などについて再考いただける旨を伺っております。特に、「5. 成果指標」の欄につきましては、十分な検討をお願いしたいと思います。